資料４

認知症施策の課題

検討課題１
認知症バリアフリーの推進

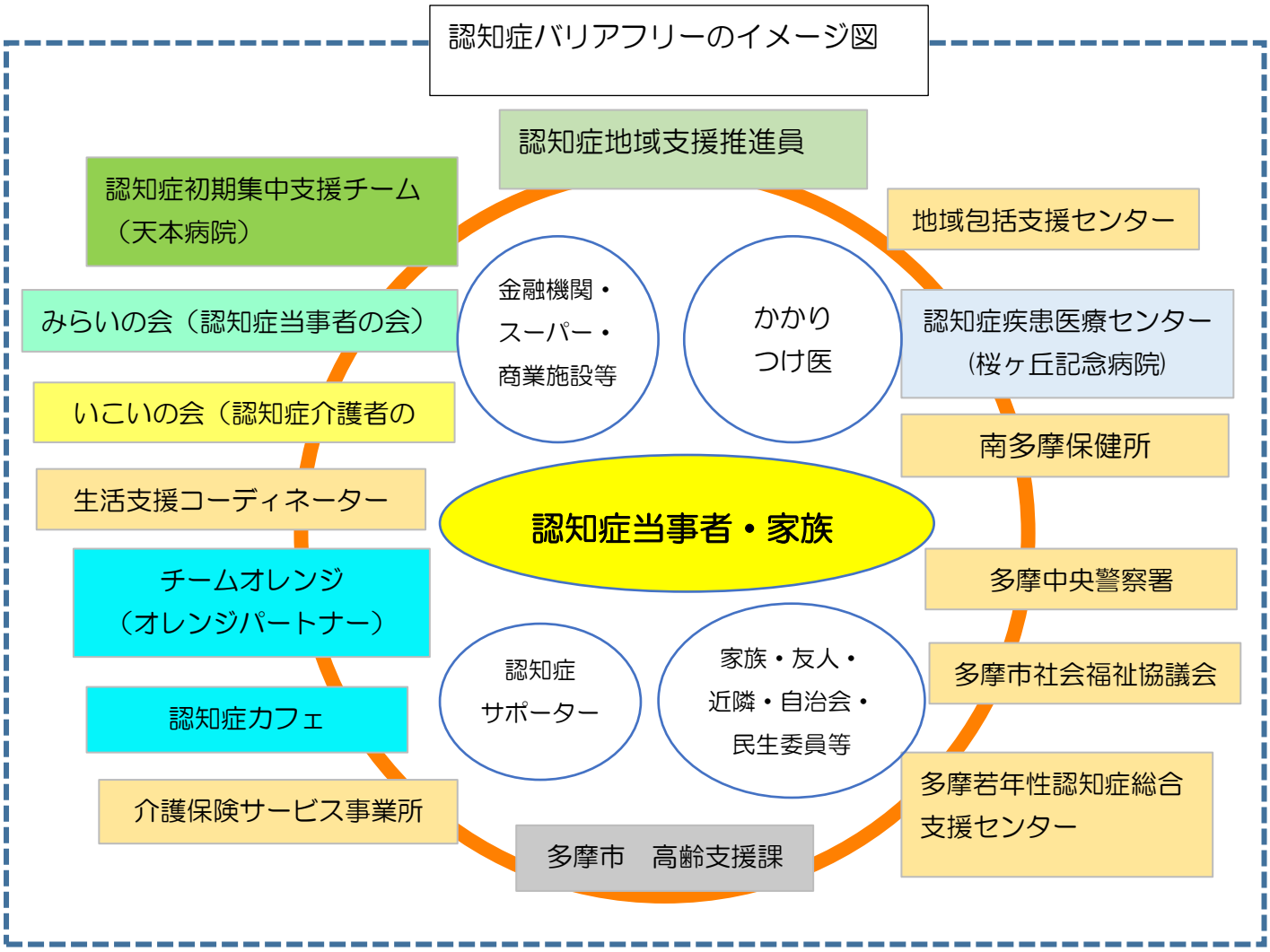
第１回認知症施策推進協議会でいただいた課題

・介護保険制度にマッチングしない人たちへの支援が必要。
・介護保険制度以外でインフォーマル支援ができる事業の展開が必要。
・介護保険制度のはざまで見守りができない等、制約がある。
・認知症本人が支えられるのではなく、活躍できる場の創出が必要。
・若年性認知症の相談が少ないため、潜在的なところをどのように発掘していくかが課題。
・60 歳、65 歳が社会参加でき、認知症について事前に知ることができるような場所の創出が必要
・配布している資料は、「認知症にならない、予防できる」と読み取れることがある。認知症にならないために体操をしていた人が、認知症になって受け入れられない現状があるため、当事者予備軍（市民）へわかりやすく説明する必要
・高齢支援課以外の職員の認知症の人への対応や配慮が必要。
・施策や公的支援だと漏れてしまうので、条例制定が必要。
・夜間見守りできる仕組みが必要。

【認知症の方が地域で生活するうえでの課題】

・行方不明者の対応
・介護負担等による家族からの虐待
・無銭飲食や万引きにあたる行為
・近隣への迷惑行為（ゴミ屋敷、庭の手入れが困難、攻撃的な言葉や様子）
・保清困難（異臭・汚れた服）
・銀行や ATM の利用が困難
・買い物（物の選択・会計の対応・お金の計算・道に迷う）、外出の困難
・コミュニケーションや社会参加が困難
・認知症の方の社会参加の場
・フォーマルサービスで対応できない支援（制度のはざま、夜間見守り等）

◎ 上記の課題について具体策を検討し、認知症施策に反映していく。



検討課題２

多摩市版チームオレンジの在り方（多摩市の地域性を活かしたチームオレンジを構築）

チームオレンジとは、
認知症当事者と認知症サポーターステップアップ講座を受講したオレンジパートナーと専門職で構成されたチーム。市がコーディネーター（認知症地域支援推進員）を配置し、オレンジパートナーの任意性の活動を尊重しつつ、認知症当事者とその家族のニーズとオレンジパートナーを中心とした支援をつなぎ、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりを実施するもの。
また、認知症当事者とその家族もチームの一員として、オレンジパートナーと共に活動するものであり、支え合い助け合いの地域共生社会を目指すもの。